

---

## 【在タンザニア日本国大使館】 タンザニア・ビジネス・ニュース2021年3月号

---

2021年3月のタンザニア政府公式文書や主要英字新聞を元に作成したビジネス・ニュースを、以下お送りします。

### 1 タンザニア一般事項（政治、社会等）

#### **（1）マスード元ザンジバル司法長官、ザンジバル第一副大統領に就任（1日付、シチズン紙等）**

ムウィニ・ザンジバル大統領、ACT愛国者党の推薦を受けて、新型コロナに感染して急逝したとされる故ハマド第一副大統領の後任としてオスマン・マスード・オスマン・シャリフ元ザンジバル司法長官を第一副大統領に任命。

#### **（2）保健大臣、医薬品の大量紛失事案を発表（1日付、デイリー・ニュース紙）**

グワジマ保健大臣、2019年7月から2020年末までの間に少なくとも267億タンザニアシリング（約12億7,500万円）相当の医薬品が職務怠慢やずさんな管理などで紛失していることが判明した旨記者会見にて発表。

#### **（3）外務次官、第6回タンザニア・ブルンジ常設共同委員会出席（3日及び5日付、外務東アフリカ協力省ブログ）**

3日、第6回タンザニア・ブルンジ常設協働委員会が開催され、両国外務次官以下関係省庁高官が出席。ンティランペパ・ブルンジ外務次官は、同国のSADC加盟やEUによる経済制裁解除に向けたタンザニアの支援に謝意を表明。5日、カブディ外務大臣は、特に東アフリカ共同体の下での道路建設、国境管理など、両国が様々な分野で協力を強化していくことに合意した旨発言。外交、防衛・安全保障、交通インフラ、教育・文化、貿易・投資の5分野の協力文書に署名。

#### **（4）外務大臣、ブルンジ外務大臣と共に戦略プロジェクトを視察（5日付、外務東アフリカ協力省ブログ）**

カブディ外務大臣、シンギロ・ブルンジ外務大臣と共に、キゴマ州で実施されているキゴマ特別経済区、キゴマ空港、港湾施設、国境管理施設などの戦略プロジェクトを視察。

#### **(5) マグフリ大統領、コロナ罹患の噂（10日付、SNS）**

マグフリ大統領が新型コロナウイルスに感染し、ケニアのナイロビ病院に入院したとの憶測が複数のメディアで流布。同大統領は、先月末より、これまで欠かすことのなかった日曜礼拝に出席しないなど、現在の所在を詮索する記事が多く出回る。

#### **(6) リッス民主開発党副議長、マグフリ大統領の健康状態についてSNS発信（11日付、SNS）**

リッス民主開発党副議長、マグフリ大統領がナイロビの病院から昏睡状態のまま人工呼吸器を着けてインドに搬送されたとの情報を発信。これをBBC、ロイター通信等複数の国際メディアが引用して報道。

#### **(7) マジャリワ首相、マグフリ大統領コロナ罹患の噂を否定（12日付、SNS）**

マジャリワ首相は、訪問先のンジェンベ州のモスクで演説を行い、マグフリ大統領が新型コロナウイルスに感染し治療を受けているとの噂を否定し、元気に職務を行っていると言。

#### **(8) ハッサン副大統領、遊説先でマグフリ大統領メッセージを披露（15日付、シチズン等）**

ハッサン副大統領、訪問先のタンガで国民に宜しく伝えてもらいたいとのマグフリ大統領からのメッセージを披露。外国からのでたらめな情報に惑わされることなく、タンザニア国民は真面目に勤労することが大切との考えを改めて表明。

#### **(9) ACT愛国者党、マグフリ大統領の健康状態につき説明を求める声明を发出（16日付、SNS）**

ACT愛国者党、国の指導者の健康状態は国民の大きな関心事項であり、政府はマグフリ大統領の健康状態について国民に説明すべきとする声明を発表。

#### **(10) マグフリ大統領逝去（17日、TV中継）**

17日午後11時半頃からサミア副大統領が突如テレビでマグフリ大統領が心臓疾患により同日夕刻逝去した旨公表。

#### **(11) 中国大使、外務次官と会談（17日付、外務東アフリカ協力省ブログ）**

王中国大使、ドドマの外務省にてイブゲ外務次官と会談し、外交及び通商関係の他、各種開発協力プロジェクトの実施を通じた2国間友好協力関係の発展強化に付き協議。

### **(12) サミア・スルフ・ハッサン副大統領、第6代大統領就任(19日、TV中継)**

マグフリ大統領の逝去を受け、憲法に基づきサミア・スルフ・ハッサン副大統領が、第6代大統領に就任。任期は2025年まで。

### **(13) 汚職防止撲滅局(PCCB)、タンザニア港湾庁(TPA) 総裁が多額の現金を自宅に隠し持っていたとの噂を否定(30日、デイリー・ニュース紙)**

ムブンゴPCCB総裁、29日に収賄容疑で逮捕されたカココTPA総裁に関し、逮捕時に160万米ドルの現金を自宅に所持していたとのSNS情報を否定。

### **(14) 外務次官、在オマーン大使及び在カタール大使と会談(30日付、外務東アフリカ協力省ブログ)**

イブゲ外務次官、キリマ在オマーン大使及びラジャブ在カタール大使と会談し、タンザニアを代表してそれぞれの任地との外交関係及び投資・観光誘致を中心とする経済関係の発展に努めるよう指示。

### **(15) ムパンゴ前財務計画大臣、副大統領に任命(30日、TV中継)**

30日、サミア大統領は、副大統領候補としてムパンゴ前財務計画大臣を指名。同日、国会にて承認された。

### **(16) サミア新大統領組閣(31日付、TV中継)**

31日、サミア大統領は組閣を発表。農業・畜産・漁業大臣等の経験を有するンチェンバ憲法司法大臣が財務・計画大臣に就任、外務大臣には元外務次官で駐米大使の経験を持つムラムラ氏が就いた。経済関連では、産業・貿易大臣にはムクンボ氏(前大統領府国務大臣・投資担当)、首相府国務大臣(投資担当)には、ムワンベ氏(前産業・貿易大臣)が就任した。

## **2 経済**

### **(1) 政府、新たな漁港の建設を計画(2日付、ニパシェ紙)**

畜産・水産分野関係者会議にて、ンダキ畜産・水産大臣は、新たな漁港の建設に係るフィジビリティ調査が完了したと発表。またタンザニア漁業公社(TAFICO)が、海洋漁業の振興、養殖、魚介類の加工に焦点をあてたビジネス展開計画の策定を行うと述べた。

## **(2) 政府、漁港建設及びタンザニア漁業公社 (TAFICO) 再生を計画 (3日付、ガーディアン紙)**

政府は、遠洋漁船が寄港可能な漁港の建設及びTAFICOの再生を含む漁業セクター開発計画を発表。同計画では10の関連プロジェクト(総額893億シリング)の実施が計画されており、漁船の購入、魚加工工場の建設等が含まれる。日本政府から支援(約42億シリング)により漁船の調達が行われる。

## **(3) 政府、2025年に地熱発電所操業開始を計画 (3日付、ガーディアン紙)**

政府所有のタンザニア地熱開発公社(TGDC)は、2025年での地熱発電(200MW)の開始を発表。TGDCは、ムベヤ州ルングウェ県において調査を目的とした掘削作業の契約を地元企業と締結。現在、国内には50か所の発電所設置の候補地がある。

## **(4) 電気公社(Tanesco)、標準軌鉄道(SGR)へ70MWの電力供給を計画 (3日付、ガーディアン紙)**

Tanescoは、SGRの第1区間(ダルエスサラーム・モロゴロ間)への電力供給のため、ダルエスサラームのキニエレズィからモロゴロまでの電柱設置の完了を公表。

## **(5) 通信規制庁(TCRA)、通信サービスの新たな規制を策定 (3日付、シチズン紙)**

TCRAは、各通信事業者の料金の変更に関する新規制を発表。今後、通信料金体系の変更にはTCRAによる承認が必要となり、承認から3か月間は、利用者への周知期間とすることが求められる。

## **(6) 世銀、中所得国維持のため貧困層保護を助言 (4日付、ガーディアン紙)**

世銀は報告書「タンザニア経済アップデート」を公表。タンザニアは新型コロナによる不況を回避したが、実質GDP成長率は、2020年には2%に減少し、2021年は3~5.3%の範囲の成長を予測。貧困率は27.2%に増加し、約60万人が貧困ライン以下に追加された。

## **(7) 中国商業銀行の資産をNMB銀行が買収 (5日付、シチズン紙)**

自己資金比率の規制要件を満たせず、昨年11月以降、タンザニア中央銀行(BoT)の法定管理下あった中国商業銀行の資産と負債をナショナル・マイクロ・ファイナンス銀行(NMB)が買収。これは銀行金融機関法第58項(4)に基づく。

## **(8) SGR第2区間工事、約52%まで進捗 (6日付、ガーディアン紙)**

SGR第2区間(モロゴロ・マクトゥポラ(ドドマ)間、423km)の建設現場を視察したマジャリワ首相が、建設工事が51.9%まで進捗していると説明した。2022年2月での完成が目標。

### **(9) ザンジバル、石油・ガス関係者がローカル・コンテンツ法の制定を政府に要望（10日付、ガーディアン紙）**

ザンジバル石油・ガス供給者協会(ZAOGS)の設立を目的とした会合にてタンザニア石油・ガス供給者協会(TAOGS)の代表が、国民が石油・ガス開発から恩恵を受けられるようにするため、企業が国内生産の産品等を調達・使用することを求めるローカル・コンテンツに関する法律を制定するようにザンジバル政府に要望。

### **(10) タンザニアとケニア、トウモロコシの輸入禁止について協議（9日付、シチズン紙）**

5日にケニア政府が基準を超えた有害なマイコトキシンが検出されたとするタンザニアとウガンダのトウモロコシの輸入禁止に関して、タンザニアのアッバシ政府報道官は、ケニア国境で輸送トラックが入国を止められているのは事実であり、両国間で協議を行っていると説明。

### **(11) 多くの輸出業者が、規制・手続き上の課題に直面（11日付、シチズン紙）**

インターナショナル・トレード・センターが実施した非関税措置(MTNs)に関する調査によると、タンザニアの輸出業者の72%(農産品76%、工業製品57%)が、輸出入に関する輸出許可、検査証明等の取得、関連書類の提出等といった規制・手続き上の課題に直面。

### **(12) 金輸出額が約30億ドルに到達（11日、シチズン紙）**

最大の外貨獲得源である金の輸出額が、金の価格の高騰を背景として、今年1月末までの1年間で約29億7,000万ドルに到達(前年約23億ドル)。一方で観光からの外貨獲得は、昨年約26億5,000万ドルに対して、約9億7,580万ドルに低下。

### **(13) 国会、次年度予算の枠組みを議論（12日付、シチズン紙）**

国会にて、2021/22年度の予算枠組みについてのムパンゴ財務・計画大臣(当館注:現副大統領)が、次年度予算の規模は約36兆2,300億シリング(今年度34兆8,800億シリング)に増加し、ニエレレ水力発電建設計画、SGR建設計画、エア・タンザニア再生等のフラッグシップ計画への支出を継続すると発言。また行政の効率化と人材の育成のためにICT活用についても述べた。また2020年第3四半期末までの実質GDP成長率は4.7%で、雨によるインフラの破壊、新型コロナによる公共事業実施の停滞等のため過去の平均(7.3%)よりも低い水準であると述べ、2021年の目標は、6%台であると説明。

### **(14) SGR第1区間、8月に運行開始へ（14日、サンデー・ニュース紙）**

SGRの第1区間ダルエスサラーム・モロゴロ間は、6月に機関車・客車等が到着し、試験運転後の8月には運行が開始されると見込まれる。第2区間モロゴロ・マクトゥポラ(ドドマ)間、2022年に開始される予定。

### **(15) ケニア、トウモロコシの輸入禁止について農業大臣が発言（17日、シチズン紙）**

3日、ケニア農業・食糧庁（AFA）は、タンザニアとウガンダのトウモロコシから安全基準を超えるマイコトキシンが検出されたと発表。他方、ケニア政府は、禁止ではなく品質検査を国境で行っていると説明している。国境で約20台のトラックが待機させられていることについて、ムケンダ農業大臣は東アフリカ議定書の通り、農産物の輸入国が適合証明書を保持するトラックは直ちに入国を許可されるべきであると発言。

### **(16) 投資庁（TIC）、SGR沿線の投資を促進（18日付、ガーディアン紙）**

TICは、提案されたSGR沿線における投資計画30件の内、ホテル、飲食店、金融等の多様な投資計画14件が承認されていることを明らかにした。

### **(17) ヘリウム・ワン社、ヘリウムの掘削を開始へ（24日付、シチズン紙）**

ルクワ州でのヘリウム探査・開発ライセンスを持つオーストラリアのヘリウム・ワン社は、ガス開発に関わるデータを取得に必要な人員と機材の導入等を完了したことを明らかにした。このデータによりヘリウム資源が埋蔵されている可能性のある地下構造を視覚化し、掘削に地質学的リスクを軽減できる。同社は、Attis Oil and Gas社と合併後、昨年12月にロンドン代替投資市場（AIM）に上場しており、約531万ドルの資金調達を目指している。

### **(18) 畜産・水産省、漁業規制法のレビューを開始（25日付、ガーディアン紙）**

ンダキ漁業・水産大臣は、漁業規制法のレビューの開始を公表し、同法の2020年の改正内容に対する漁業関係者からの苦情に対して対応すると説明した。

### **(19) 東アフリカ石油パイプライン（EACOP）建設計画、4月着工（30日付、デイリー・ニュース紙）**

ウガンダ石油庁（PAU）、EACOPの4月着工を発表。当初3月22日に着工予定であったが、マグフリ前大統領の死亡を受けて延期されていた。総工費は約1兆7,000億シリング（約8,500億円）。パイプラインは、ウガンダからタンザニアのタンガ港まで敷設される。

### **(20) 鉱業、政府歳入の約3,990億シリングに貢献（30日付、ガーディアン紙）**

今年度、2020年7月から2021年2月の間に、鉱業分野からの税収が約3,990億シリングに到達。昨年度時期より13.73%の増加。この増加は、国内各所での鉱物市場の設立といった政府の努力による。

### **(21) エア・タンザニア国営航空（ATCL）、約600億シリング赤字（30日付、シチズン紙）**

2019/20年度、ACTLが約600億シリング（約30億円）の赤字であったことが、28日に政府に提出された国家会計監査庁長官（CAG）の報告書で明らかになった。また、過去5年連続して赤字が報告されているという。

## **（22）SBIモーター社が、タンザニアで支店を開設（30日、シチズン紙）**

中古車販売を行う日本のSBIモーターズ社が、Afritel Systes社との業務提携の下、ダルエスサラームに支店を開設（当館注：SBIホールディングス傘下）。東アフリカ全域で販売業者を配置し、月1万台の販売を計画している。セント・パーツ社と提携し、購入者への無償での修理のサービスも行う（当館注：セント・パーツ社は、JICA中小企業支援の案件化調査（2019年～2020年）を実施している）。

## **3 開発**

### **（1）仏、バス高速交通事業に1億5千万ユーロを用意（11日付、ガーディアン紙等）**

10日、カブディ外務大臣及びクラビエール・フランス大使との協議において、フランス政府はバス高速交通（BRT）事業のフェーズ5に対し、譲許的融資1億5千万ユーロを用意することを発表した。本協議は、先日大臣がフランスを訪問した際の合意に基づくもの。両者はまた、本土及びザンジバル政府による漁業、加工、輸出を含むブルーエコノミーへの取組に係る支援についても協議。

### **（2）米国、難民への食料支援に800万ドルを供与（17日付、シチズン紙等）**

16日、ダルエスサラーム港において、ライト米国大使はWFPにキゴマ難民キャンプ3箇所への支援を目的とした800万ドル相当の食料及び資金を供与。資金の一部は、現地の小規模農家を通じた食料調達に充てられる。

### **（3）中国、ザンジバル政府に142億5千万シリングを供与（18日付、シチズン紙）**

17日、張在ザンジバル中国総領事は、経済技術合意に署名し、コミュニティ開発支援を目的とした142億5千万シリング（約615万ドル）の小切手をザンジバル政府のジャマル・カッシム・アリ国務大臣（財務・計画担当）に手交。本資金は無条件のグラント。

## **4 コロナ関連**

### **（1）カトリック教会、新型コロナウイルス感染症に対する政府の取組強化を訴える（3日付、シチズン紙等）**

キティマ・タンザニア・カトリック教会神父は、過去2ヶ月間にタンザニア国内で神父25名、修道士及び修道女合わせて60名が呼吸器疾患により亡くなったとして、神への祈りだけでなく、政府が国民に対して新型コロナウイルス感染症に関する注意喚起を行う必要があるとの認識を表明。

## **(2) 与党広報紙、ワクチンに関する陰謀説を広報（5日付、ウフル紙）**

与党革命党ウフル紙、コロナ・ワクチンは、多額の利益を得ようとする先進国の陰謀であり、その傀儡が全ての死亡事例を故意にコロナと関連づけてアフリカ大陸の人々の恐怖心をあおっていると批判。

## **5 その他（治安、安全情報等）**

### **(1) ダルエスサラーム地域警察、強盗容疑者5名を射殺（2日付、デイリー・ニュース紙）**

マンボササ・ダルエスサラーム地域警察署長、同市郊外ブレ・イランガで強盗容疑者5名を射殺、拳銃1丁及び弾薬5個を押収した旨発表。

### **(2) シニャンガ州警察、マリファナ農園者2名を拘束（16日付、ガーディアン紙）**

シンニャンガ州カハマ地域警察、10エーカーの違法マリファナ農園者2名を拘束。

### **(3) 故マグフリ大統領国葬式、集団暴走により死傷者多数発生（30日付、シチズン紙）**

ダルエスサラーム地域警察、同市国立競技場での故マグフリ大統領国葬式で、多数の群衆による集団暴走により死亡者45名、負傷者37名を確認。

### **(4) キゴマ州警察、武装盗賊容疑者6名を射殺（30日付、ガーディアン紙）**

キゴマ州警察、巡回中にカスル地域消防署で武装した盗賊容疑者6名を射殺。

(以上)